



「社会教育主事・社会教育士」って何?

皆さんは社会教育主事や社会教育士という言葉を知るとどんなことをイメージしますか?本号では、千葉県が推進する社会教育主事の配置や社会教育士の養成、学校での活躍の場面について御紹介いたします。

◇社会教育主事の職務について

社会教育主事は、社会教育法第9条の3に規定されているように、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与えたり、学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て教育活動を行う場合に、その求めに応じて、必要な助言を行ったりすることができます。主な職務例は下欄のとおりです。

1. 教育委員会事務局が主催する社会教育事業の企画・立案・実施
2. 管内の社会教育施設が主催する事業に対する指導・助言
3. 社会教育関係団体の活動に対する助言・指導
4. 管内の社会教育行政職員等に対する研修事業の企画・実施 ※文部科学省HPから一部抜粋

※以下、千葉県HPから抜粋

千葉県教育委員会では、県内の社会教育の振興のため、本庁及び教育事務所に「社会教育主事」を配置しています。また、市町村教育委員会に対し、事務局に社会教育主事を配置するため、市町村職員の計画的な社会教育主事講習の受講を求めています。

また、令和2年度から始まった「社会教育士」制度の県民への周知と称号取得を推進し、社会教育に携わる多様な主体の中で広く活用され、連携・協働して人づくりや地域づくりに活躍していくことを図っています。

◇社会教育主事・社会教育士の専門性

講習や養成課程をとおして養われる、社会教育の体系的理解や以下の専門性を発揮し、様々な場で活躍することが期待されています。

1. ファシリテーション能力 (活動への意欲・自発性を引き出す)
2. プレゼンテーション能力 (より多くの人に、わかりやすく、共感しやすい方法で積極的に伝える)
3. コーディネート能力 (人と人、組織と組織をつなぐ)



◇社会教育主事配置の推進

社会教育主事とは

社会教育主事は、社会教育法第9条の2により規定された、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置くことが定められている**専門職員**です。

【社会教育主事の役割】

- ・教育委員会事務局が主催する**社会教育事業の企画・立案・実施**
- ・管内の**社会教育施設**が主催する事業に対する**指導・助言**
- ・**社会教育関係団体**の活動に対する**助言・指導**
- ・管内の社会教育行政職員等に対する**研修事業の企画・実施**



【県内の社会教育主事配置状況】

県内の配置人数 (令和4年度実績)

千葉県教育委員会	11名
市町村教育委員会	53名 (31自治体)

◇社会教育士養成の推進

社会教育士とは

社会教育士は、社会教育主事講習等規定により規定された、学びを通じて、人づくり、つながりづくり、地域づくりに中核的な役割をはたす**専門人材の称号**です。定められた講習の修了もしくは養成課程に必要な単位を修得することで名乗ることができるようになります。

【社会教育士に期待される役割】

- ・NPOや企業等の**多様な主体と連携・協働**して、社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における**学習活動の支援**を通じて、**人づくりや地域づくりに携わる**
- ・住民の地域社会への**参画意欲を喚起**する
- ・住民の多様な**特性に応じて学習支援**を行う
- ・住民の学習成果を地域課題解決やまちづくり、**地域学校協働活動等につなげる**
- ・地域の多様な専門性を有する**人材や資源をうまく結びつけ**、地域の力を引き出す
- ・**地域活動の組織化支援**を行い、地域住民の学習ニーズに応えていく



※多様な分野に社会教育士がいることで、さらなる学習機会の充実とネットワーク化が可能になります。

◇社会教育主事・社会教育士になるには

「社会教育主事講習」の修了もしくは大学及び短期大学の「社会教育主事養成課程」で必要な単位を修得することで、「社会教育士」の称号を取得することができ、法律で規定された期間、教育もしくは社会教育に関する職にあった方が、「社会教育主事」となりうる資格を取得することができます。

※社会教育主事になるには、社会教育主事になりうる資格を有している方で、都道府県・市町村教育委員会から「社会教育主事」として発令されることが必要です。

※社会教育主事講習・社会教育士養成課程についての詳細は、下記URL又は二次元コードから、文部科学省

「社会教育主事講習・社会教育主事養成課程について」を御覧ください。

URL : https://www.mext.go.jp/a_menu/01_l/08052911/classes.html



学校ではどのような場面で活躍が期待されるの？

- ・地域と子供の学びを繋げる**コーディネーター**として
- ・校内研修や全体計画作成をとおした、教職員の地域連携に対する意識向上を図る**ファシリテーター**として
- ・分野や組織を越えた連携・協働を促進する**中核的人材**として ※別紙「社会教育士周知チラシ」から一部抜粋

上記の資格や称号を取得した教員は、学校において上記のような場面での活躍が期待されます。また、地域連携担当をはじめとした、学校と地域の連携の推進役としての活躍が期待されています。



南の社教の「ズームイン！南房総」Vol.7

南房総教育事務所管内の各自治体では、青少年の健全な育成を目指し、子供会育成会や青少年相談員等※自治体によって名称が異なる場合がありますを中心に、様々な取組を行っています。

今回はそんな数ある取組の中から、鋸南町の「富士のさとチャレンジサマーキャンプ」にズームイン！

※以下町報及び報道掲載依頼記事より一部抜粋

鋸南町子どもチャレンジ実行委員会では、7月30日～8月1日の2泊3日の日程で「富士のさとチャレンジサマーキャンプ」を実施しました。

同実行委員会は、鋸南町子ども会育成連盟、鋸南町青少年相談員連絡協議会が中心となり、子供たちの豊かな体験活動を通して、「生きる力を育む」ことを目的に今年で5回目の実施になります。

今回は鋸南小中学校から35名の児童生徒、22名のスタッフ、総勢57名が参加しました。

静岡県御殿場市の国立中央青少年交流の家を拠点に、集団で宿泊生活をしながら野外炊事やオリエンテーリング等を行いました。キャンプ2日目には、メインプログラムである富士山登頂とトレッキングに挑戦。今年は登頂コース11名で山頂を目指しました。須走口五合目を出発し、本七合目の見晴館に宿泊。雷や雹が降る悪天候に見舞われ本八合目で登頂を断念、下山し須走口五合目に到着しました。

トレッキングコースの24名は、富士宮口五合目を出発、江戸時代に噴火した宝永山の火口縁を經由し、天候に恵まれ壮大で変化に富んだ景色を堪能し、御殿場口新五合目に到着しました。



参加した子供たちからは「宝永山火口や雲海など壮大な景色が見られて感動した」「雲より高いところに自分があることがすごい」「友達と励ましあいながら歩くことができた」「悪天候のため途中で下山することになったが、来年また挑戦したい」などの声が聞かれた。

実行委員長は、「雄大な自然の中でチャレンジし、互いに協力して活動したことで、皆さんは成長したと思う。この経験をこれからの日々の生活に繋げてほしい。」と話しました。

文部科学省は、令和4年6月に「子供の体験活動推進宣言」を発表しました。宣言の中には、**次代を担う者として新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力**等を身に付けていくためにもリアルな体験活動が重要であると書かれています。また、子供の体験に関する様々な情報をまとめた「体験の風をおこそう」運動推進委員会HPもあります。下記二次元コードからHPを御覧いただき、体験の魅力や可能性について、考えてみてはいかがでしょうか！

